

地方及體性	○ 歳		一 歳		二 歳		三 歳		四 歳		五 歳	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
臺北州	110	112	108	110	106	108	104	106	102	104	100	102
新竹州	108	110	106	108	104	106	102	104	100	102	98	100
臺中州	106	108	104	106	102	104	100	102	98	100	96	98
臺南州	104	106	102	104	100	102	98	100	96	98	94	96
高雄州	102	104	100	102	98	100	96	98	94	96	92	94

ハ 好悪兩地區に於ける身長比較

衛生状態の良否は又發育に影響することは自明の理と謂ふを得べく、即ち地理的環境、經濟的關係特に給養の完否に左右せらるゝことの甚大なるは疑を容れる餘地がない。今衛生状態の良否兩部落に於ける零歳乃至五歳間の伸身状態を観るに男は各歳二分乃至六分の間にありて優良部落の勝れたるを知れり。女は優良地に在りて零歳は五分、一歳は三分勝れてゐるが、二歳乃至五歳の四年齡は二分乃至九分の間にあつて不良地が勝れてゐる。斯く不良地の好現象なるに就ては更に検討を要する事項である。

不良地女の成績を再考するに臺南州を除く其の他の各州は總て良好地が迥に勝れてゐる、臺南

州のみは零歳は好悪兩地區全く同位、一歳は二分の微差にて良好地勝れ、二歳以上は悉く不良地が一八分乃至三分の間に於て勝れてゐる。この影響が全島平均位に反映したるものである。

□ 好悪兩地區に於ける體性別身長比較(單位:分)

年 齡	男		女	
	良好地	不良地	良好地	不良地
○ 歳	112	110	110	108
一 歳	110	108	108	106
二 歳	108	106	106	104
三 歳	106	104	104	102
四 歳	104	102	102	100
五 歳	102	100	100	98

備考 (一)は不良地區の勝れたるを示す。

ニ 内地との比較

島民の幼兒身長を内地七十八箇農村のそれと比照すると、島民が斷然優秀である。前體重にあつては本島の勝れたるは唯零歳の男女のみであつたが、本身長にありては唯三歳の男が僅かに一分の差を以て内地に劣るの外、其の他の幼兒各歳は總て勝れてゐる、但し五歳の女兒は彼我俱に三八二・九分の同位を示してゐる。これ本島の民族的體型の相異なりと謂ふべきである、而して體型の遷革には衣食住其他慣習等に関し鋭意衛生的に移行すべきものである。

□ 本島と内地との身長比較(單位分)

種別	本島		内地		較差
	女	男	女	男	
〇 歳	三三	三三	三三	三三	
一 歳	三三	三三	三三	三三	
二 歳	三三	三三	三三	三三	
三 歳	三三	三三	三三	三三	
四 歳	三三	三三	三三	三三	
五 歳	三三	三三	三三	三三	
六 歳	三三	三三	三三	三三	
七 歳	三三	三三	三三	三三	
八 歳	三三	三三	三三	三三	
九 歳	三三	三三	三三	三三	
十 歳	三三	三三	三三	三三	

三 胸圍

イ 全島的觀察

本島人に於ける零歳乃至五歳の胸圍を観るに、前述の體重及び身長と同軌にして、男は各歳孰れも女性を凌駕してゐる。即ち女は零歳乃至二歳及び四歳の四年齡は各三分、五歳は二分、三歳は一分の狭小を呈する。而して五箇年間に於ける胸圍増加の傾向は男女孰れも伯仲して男は三四分、女は三五分を算してゐる。

各年に依る發育過程は、これ又兩性間同軌にして零歳より一歳間は男女一分、一歳より二歳は同じく男女とも各九分にして、二歳―三歳は女、三歳―四歳間は男に於て増加率高し。各年齡に於ける性別胸圍の發育状態を表章すると、次表の如くである。

□ 體性別胸圍比較(單位分)

性	年々の發育値	
	女	男
〇 歳	一四	一四
一 歳	二五	二五
二 歳	三三	三三
三 歳	四二	四二
四 歳	五一	五一
五 歳	五九	五九

ロ 地方別觀察

零歳乃至五歳に於ける胸圍の發育經過を州別に區分して之を観察するに、本年齡期間中に發育の著大なるは男女孰れも臺中、臺南兩州の各三六分である、其の他に全島平均男三四分、女三五分を超過するものなく、漸く平均位と同一なるものに唯臺北州の男あるのみに過ぎない。而して發育の遅々たる方面を観るに高雄州を最とし、男は二三分、女は二五分にして、平均位より男は一分、女は一分の狭小である。

次に各歳間の發育状態を窺ふに、先づ零歳にては臺北、新竹兩州優秀にして男女とも全島平均(男一四一分、女一三八分)より三分の廣濶を示してゐる。之に反し臺南州は最悪にして男女孰れも平均位より五分の狭小である。一歳にありては新竹州の男一五七分にて平均より五分廣し、之に亞いで臺北州の女は平均より四分廣い。臺南州は零歳と同じく平均と比照するに女は五分、男は四分狭くして全島中の最下位である。二歳の優秀は全島平均より五分高き新竹州の男を最とする、

又最狭なるは高雄州女の二四九分にして全島平均より九分狭い、即ち之を一年々少の臺北州の一歳に比すれば四分、新竹州よりは三分、臺中州よりは一分の差減である。三歳の秀でたるは臺北州男と、新竹州女にして孰れも平均より四分の超高である。之を高雄州の二年年長の五歳者と比照するに男女ともに未だ及ばざる状態を呈してゐる。四歳の優秀は臺中州の女にて平均より四分廣く、不良なるは高雄州男にて平均量より九分狭まい。五歳にありては臺北州男の一七八分を最良とし、高雄州女の平均位より一二分狭きを最も不良とする。その詳細を表示すると、次の如くである。

□六歳未満の平均胸圍(單位・分)

地方及體性	〇 歳		一 歳		二 歳		三 歳		四 歳		五 歳	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
臺北州	一四一	一四二	一四二	一四三	一四三	一四四	一四四	一四五	一四五	一四五	一五六	一五六
新竹州	一四二	一四三	一四三	一四四	一四四	一四五	一四五	一五六	一五六	一五六	一五六	一五六
臺中州	一四三	一四四	一四四	一四五	一四五	一四六	一四六	一四七	一四七	一四七	一四八	一四八
臺南州	一四四	一四五	一四五	一四六	一四六	一四七	一四七	一四八	一四八	一四八	一四九	一四九
高雄州	一四五	一四六	一四六	一四七	一四七	一四八	一四八	一四九	一四九	一四九	一五〇	一五〇

ハ 好悪兩地區に於ける比較

衛生状態の好悪兩地區居住民の胸圍を比較して見ると、良好地は總て優秀なる成績を示してゐる。即ち胸腔の狭濶に依つて衛生状態の良否を判定するの一助たることが窺知せられる。肺活量の大小は胸廓に基因せらるべく従て呼吸器の健全に影響することも亦想像せらるゝのである。零歳は男女とも四分の較差をもつて良好地區優れ、一歳の男は好悪兩地區の成績同一である。大體兩地區の比較に於て男性よりも女性が低位にあることが解かる。其の詳細は次表の通りである。

□好悪兩地區に於ける體性別胸圍比較(單位・分)

年 齡	男		女	
	良好地	不良地	良好地	不良地
〇 歳	一四二	一四三	一四二	一四三
一 歳	一四三	一四四	一四三	一四四
二 歳	一四四	一四五	一四四	一四五
三 歳	一四五	一四六	一四五	一四六
四 歳	一四六	一四七	一四六	一四七
五 歳	一四七	一四八	一四七	一四八
差	(±)			

ニ 内地との比較

島民の胸圍を内地農村のそれと比較するに、身長の場合と同じく本島が優秀である。零歳乃至

五歳間に内地に比し狭小なるは唯五歳の男児のみで、その較差は一分である。各年の傾向を見ると、長するに伴れて島民は漸次發育が遅れて來るものゝやうである、即ち零歳にありては男女とも島民が五分の長あるも爾後逐年減少して五歳に達すると、男は却つて一分劣り、女は二分の較差となつて彼我相接近するを見る。之を要するに、乳幼児期に在る胸圍は島民を優秀なりとす。

□本島と内地との胸圍比較(單位:分)

種 別	本 島		内 地		較 差
	女	男	女	男	
〇 歳	一四二	一四三	一三三	一三五	一
一 歳	一四三	一四三	一三三	一三五	一
二 歳	一四五	一四五	一三五	一三五	一
三 歳	一四六	一四六	一三五	一三五	一
四 歳	一四七	一四七	一三五	一三五	一
五 歳	一四八	一四八	一三五	一三五	一

備考 (一)は本島の劣りたるもの。

ホ 身長との考察

發育、栄養の状態を検討するには、單に體重、身長及び胸圍を個々別々に考察するの外身長と體重との關係、又は身長と胸圍との状態を詳知する要がある。

胸圍と身長との關係は、大體胸圍は身長に伴つて發育經過をとるものである、而して成人に達

すると胸圍は身長約半に當るのが定法である。

今乳幼児級男女の身長を一〇〇とし胸圍の割合を算出して見ると、男女の傾向は儼として同一である。但し五歳にありては男僅に低率を示してゐる。即ち零歳は男女とも六六、一歳は六二と逐次年齢の長するに従て遞減し四歳には五四に減じ、五歳に至れば男は五二、女は一%高く五三を示して來る。

之を要するに五歳迄の乳幼児の發育經過は全く同型を呈し、五歳に至れば女兒僅かに横徑的増加の著明なるを知る。

□身長一〇〇に對する胸圍

種 別	男					女					
	〇 歳	一 歳	二 歳	三 歳	四 歳	〇 歳	一 歳	二 歳	三 歳	四 歳	五 歳
胸 圍	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
身 長	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

更に地方別に依る身長對胸圍比の關係を観るに、その歸嚮が各々特異の傾向が認められるから、之を略述すると次の如くである。

1 臺北州 身長は全島平均に比照して、女は佳良であり、男は平均位に達せざるもの三年齡を認むる状態であつたが、胸圍は然らず總て全島平均位を凌駕してゐる。即ち三歳の男女と、五歳の女は全島平均と全く同位、其の他の各歳各性は孰れも全島平均以上の優良を示してゐる。

2 新竹州 胸圍の發達は本州を最上とし、五歳女の平均と同位なる外、其の他は總て平均以上の優良である。

3 臺中州 身長は全島首位の好成绩であるが胸圍は女にありて比較的佳良なれども、男は各歳を通し僅に平均に達せず、即ち女の二歳は平均と同位、五歳は平均より一%低く、其の他の四年齡者は各々平均位より一%宛高し。然るに男は零歳は平均と同位、其の他の五年齡は總て一%づつ低い。之を要するに本州の男の胸圍は平均位より僅かに不良、女の胸圍は平均位より僅かに良好である。

4 臺南州 本州居住者の胸圍は身長の状態よりも一層劣悪を示してゐて五歳男のみ唯平均と同位を示す外、其の他の兩性各歳は總て百分の一乃至三の割合で平均より低劣である。

5 高雄州 一歳の男女及び二歳の男のみ漸く平均と同位を保ち、其の他は臺南州と同じく百分の一乃至三の範圍内で平均よりも狭小である。

□ 地方別身長對胸圍比(單位・分)

種 別	男					女				
	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州
身 長	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
胸 圍	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
比 率	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
比 率	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
比 率	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
比 率	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
比 率	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇

種 別	男					女				
	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州
身 長	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
胸 圍	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
比 率	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
比 率	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
比 率	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
比 率	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
比 率	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇

へ 内地に於ける身長對胸圍比率との比較

島民の身長對胸圍比を内地農村の成績と對照するに逕庭なく、殆ど同型である。即ち男の状態を観るに、零歳乃至二歳は彼我全く同率、三歳は一%の差にて島民優れ、次に四歳は孰れも五四%にて同位、五歳は三歳の場合と同じく一%の差にて島民の劣れるを知る。換言すると六年齡中、前半は交互に同率、後半の一は同率、他は交互に一年宛の輸贏となる。

次に女の状態を観察するに零歳及四歳の二年齡は全く同位、而かも男兒と同率を呈してゐる。其の他の四年齡は内地農民孰れも一%の狭小である、即ち女の胸圍比は島民の優逸なることが明る。

左に島民と内地農村民との身長對胸圍比を擧げむ。

□ 内臺人の身長對胸圍比の比較(身長百に對する胸圍)

種 別	○ 六 歲		一 七 歲		二 三 歲		三 四 歲		四 五 歲	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
本 調 査	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
内 地 農 村	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
本 調 査	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
内 地 農 村	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六

第二 六歲以上十五歲未滿の體格

一 體 重

イ 全島的觀察

六歲乃至十五歲未滿は學齡期、所謂少年少女時代にして、身體の最も旺盛なる發育期である。即ち第一次伸長期の終より第二次肥滿期及び第二次伸長期であるから、第二國民の教養上、體育保健の見地からも、特に深甚の顧慮を拂はねばならぬ年代である。

今その横徑的發育の状態を觀察するに、五歲迄に於ける状態と同じく六歲乃至一〇歲間は男の發育良好なれども、十一歲に至れば一轉して女の發育比遽に強大して男を凌駕し、その質量男は六・九二八に對し、女は三一・九の増加を示して六・九五九となる。次年即ち十二歲よりは其の較差いよ／＼殖加して十四歳の終に至れば女の超過體重五四三に上つてゐる。

年々の發育値を仔細に考察して見ると、六歲及び七歲は男の肥滿量(前年は一七九後年は九九)僅

に女を壓すれども、八歲に達すると其の發育状態が甚しく女強大を呈し、男を凌ぐこと六五に上る。九歲は再轉して男の發育値優勢を示して來る。十歲には三轉女の發育比高率となり、十一歲に至れば、前述の如く年々の發育値高率となるのみならず質量にありても女の優位を見たのである。

六歲以上十五歲未滿の八箇年間に男は四・七四〇、女は五・四六二の體重増加にして一箇年平均男は五・九三、女は六・八三の割合である。

其の詳細は次表の如くなる。

□ 體性別體重比較(單位・各)

性 別	六 歲		七 歲		八 歲		九 歲		一〇 歲		一一 歲		一二 歲		一三 歲		一四 歲	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
男	四・五三	四・三三	四・九四	四・六六	五・六〇	五・三三	六・〇九	五・八三	六・八六	六・六六	七・四三	八・二七	九・一三	九・九三	一〇・七九	一一・六五	一二・五一	一三・三一
女	四・三三	四・一三	四・九四	四・六六	五・六〇	五・三三	六・〇九	五・八三	六・八六	六・六六	七・四三	八・二七	九・一三	九・九三	一〇・七九	一一・六五	一二・五一	一三・三一
差	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇	二・二〇
年々の發育値	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三

□ 地方別觀察

體重増加の状態を各州別に觀察するとき、其の歸嚮必しも同型にあらず。今性別の體重より觀るに、六歲乃至一〇歲間は零歲以降の傾向と同じく男の體重は女を凌ぎ良好であるか、之を州別

に考察して見ると、如上のやうに全島の平均と同型にて十歳迄男を優越としてゐるは臺中及び高雄兩州のみで、其の他の臺北、新竹、臺南の三州は更に一年々長の十一歳迄男が優勢である。それ以降の年齢(十四歳まで)に在りては女の勝れてゐることが勿論である。

本年齡期(六—一四歳の九年齡)に於て最多體重を示したるは、男にありては、臺中州の九八二〇、亞で臺北州(九六一九)にして臺南州の八、五一六を最低とする。而して一年平均増加量は臺中州の六七三を首とし、臺南州の五〇三を最小なりとす。

女の狀態を觀るに新竹州の一〇、三三九(十四歳の終、以下同じ)を最とし、亞で臺北州(一〇、二四六)にして、第三位は男に在りては首位にありし臺中州(一〇、一二五)である。最下位にあるは男と同じく臺南州の八、九九八にして、之を最重の新竹州と比較すると約一、〇〇〇(九六五)の著差が認められ同州の一年々少の十三歳(九、一五四)より僅かに超過してゐる狀態である。

次に各州の平均體重及び絕對發育值(年々の増加量)を示すときは、次の如くである。

□六歳乃至十四歳の平均體重 (單位・kg)

地方及體性	六 歳		七 歳		八 歳		九 歳		一〇 歳		一一 歳		一二 歳		一三 歳		一四 歳	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
臺 北 州	四六六	四七〇	四九三	四九七	五一〇	五一三	五二〇	五二四	五三六	五四〇	五五三	五五七	五七〇	五七四	五八七	五九一	六〇四	六〇八
新 竹 州	四七五	四七九	四九八	五〇二	五一〇	五一四	五二二	五二六	五三九	五四三	五五六	五六〇	五七三	五七七	五九〇	五九四	六〇七	六一一
臺 南 州	四四八	四五二	四六五	四六九	四七三	四七七	四八七	四九一	五〇四	五〇八	五二一	五二五	五三八	五四二	五五五	五五九	五七二	五七六
臺 中 州	四四八	四五二	四六五	四六九	四七三	四七七	四八七	四九一	五〇四	五〇八	五二一	五二五	五三八	五四二	五五五	五五九	五七二	五七六

地方及體性	六 歳		七 歳		八 歳		九 歳		一〇 歳		一一 歳		一二 歳		一三 歳		一四 歳	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
臺 北 州	四四八	四五二	四六五	四六九	四七三	四七七	四八七	四九一	五〇四	五〇八	五二一	五二五	五三八	五四二	五五五	五五九	五七二	五七六
新 竹 州	四四八	四五二	四六五	四六九	四七三	四七七	四八七	四九一	五〇四	五〇八	五二一	五二五	五三八	五四二	五五五	五五九	五七二	五七六
臺 南 州	四四八	四五二	四六五	四六九	四七三	四七七	四八七	四九一	五〇四	五〇八	五二一	五二五	五三八	五四二	五五五	五五九	五七二	五七六
臺 中 州	四四八	四五二	四六五	四六九	四七三	四七七	四八七	四九一	五〇四	五〇八	五二一	五二五	五三八	五四二	五五五	五五九	五七二	五七六

□地方別絕對發育值 (單位・kg)

地方及體性	六 歳		七 歳		八 歳		九 歳		一〇 歳		一一 歳		一二 歳		一三 歳		一四 歳	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
臺 北 州	三二六	三三〇	三三九	三四三	三五二	三五六	三五七	三六〇	三六三	三六六	三六九	三七二	三七五	三七八	三八一	三八四	三八七	三九〇
新 竹 州	三二六	三三〇	三三九	三四三	三五二	三五六	三五七	三六〇	三六三	三六六	三六九	三七二	三七五	三七八	三八一	三八四	三八七	三九〇
臺 南 州	三二六	三三〇	三三九	三四三	三五二	三五六	三五七	三六〇	三六三	三六六	三六九	三七二	三七五	三七八	三八一	三八四	三八七	三九〇
臺 中 州	三二六	三三〇	三三九	三四三	三五二	三五六	三五七	三六〇	三六三	三六六	三六九	三七二	三七五	三七八	三八一	三八四	三八七	三九〇
高 雄 州	三二六	三三〇	三三九	三四三	三五二	三五六	三五七	三六〇	三六三	三六六	三六九	三七二	三七五	三七八	三八一	三八四	三八七	三九〇

ハ 好悪兩地區に於ける比較

六歳未滿者の傾向と同型にして、本年齡期(六—一四歳)に在りても不良地の體重は總て良好地のそれに勝るものあらず。即ち男は六歳の九七々より年齢の長するに伴つて漸次差減を大ならしめ、十四歳には七二四々の著差を認むるに至つた。

女も全く男の歸趨と同じく六歳には四〇々の差減にて不良地低小なりしが、男と同様逐歳其の

殖加を來たし、男の場合よりは較差小なれども十六歳には五八七夕の低劣を示した。

□好悪兩地區に於ける體性別體重比較 (單位・匁)

年 齡	男			女		
	良好地	不良地	較 差	良好地	不良地	較 差
六 歲	四四三	四八〇	三七	四三三	四七二	三九
七 歲	四九七	五二四	二七	四七六	五〇四	二八
八 歲	五九三	五六三	七〇	五七九	六一四	三五
九 歲	六〇〇	六二五	二五	六〇九	六三九	三〇
一〇 歲	六四六	六八〇	三四	六三九	六七〇	三〇
一 一 歲	七〇三	七三六	三三	六九〇	七二〇	三〇
一 二 歲	七四三	七八〇	三七	七三三	七六三	三〇
一 三 歲	八〇三	八三六	三三	七八三	八一三	三〇
一 四 歲	八五三	八八六	三三	八三三	八六三	三〇

更に好悪兩地區に於ける體重を地方別に觀察すると、男の傾向は大體全島平均と同型を呈してゐるが、女は六歳乃至十一歳間に於て良好地が却つて低小を示してゐる地方がある。即ち男にありては唯新竹州の十四歳級に於て良好地が五八夕の差減を示してゐるに過ぎないが、女に在りて良好地の低劣なるは新竹州に於て六歳、九歳及び十一歳の三年齡に達しその差減は一六夕より七八夕の間である。臺南、高雄兩州に在りては二年齡良好地低劣にして六歳は兩州とも低劣を示し前者は四四夕、後者は三六夕の少差である。他の一年齡は臺南州は七歳の一六六夕にして比較的

差減大と謂ふべく高雄州は八歳の五夕に過ぎない。

地方別較差も十二歳以上に達すると著しく増大して來る傾向は各州とも同軌を辿つてゐる。就中臺北州の較差が最も著明を呈してゐる。新竹州は好悪兩地區に於ける較差小を示しその最大なるものに在りても男は十一歳の一九一夕、女の十三歳三〇六夕にして殆ど平衡状態を保持してゐる。臺中州は臺北州と同型を示し良好地孰れも優秀、且つ年齡の長するに従つて漸次その較差を大ならしめてゐる、即ち男に在りては六歳の二一夕より十四歳の一三二九夕に迫んでゐる。又女も同じく六歳一三七夕より十四歳七四五夕に達してゐる。臺南、高雄の兩州は前述の如く女に於て八歳迄は優劣交錯の状態なれども九歳よりは良好地孰れも勝れて來る。

かく同一民族なるに拘らず地方に依り發育經過を考察するときには氣候風土等生活環境の身體に及ぼす影響の甚大なるを痛感せざるを得ず。則ち體格體質の改善に際しては之等要約の發育に及ぼす範圍を審に検討すべきことを強調するものある。

其の詳細は次表の如くである。

□好悪兩地區に於ける地方及體性別體重比較 (單位・匁)

種 別	臺北州		新竹州		種 別	六 歲	七 歲	八 歲	九 歲	一〇 歲	一 一 歲	一 二 歲	一 三 歲	一 四 歲
	良好地	不良地	較 差	較 差										
良好地	四六六	四四七	四六六	四四七	良好地	四六六	四四七	四六六	四四七	四六六	四四七	四六六	四四七	四六六
不良地	四四七	四二八	四四七	四二八	不良地	四四七	四二八	四四七	四二八	四四七	四二八	四四七	四二八	四四七
較 差	一九	一九	一九	一九	較 差	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九

種別	女				男			
	高雄州	臺南州	臺中州	新竹州	臺北州	高雄州	臺南州	臺中州
六歲	較不良地差	較不良地差	較不良地差	較不良地左	較不良地差	較不良地差	較不良地差	較不良地差
七歲	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
八歲	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
九歲	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
一〇歲	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
一一歲	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
一二歲	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
一三歲	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
一四歲	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

備考 (一)は良好地の低劣なるを示す。

二 内地との比較

本年齡期の體重と、内地農村民のそれと對比して見ると、六歳未満の幼児と同じく本年齡期は各歳各性悉く島民の低劣なるを見たり、而して本年齡期に在りては追歲其の差減を大ならしめてゐる、故に本島民を内地の一年々少者と對照して見るときは、各歳各性總て島民が優位にあれども、其の較差は極めて僅少である。即ち島民は内地人一年々少者より漸く勝れてゐる實狀である。かく島民の低劣なるは、或は民族的差異のみに歸着せしめんか。

體重の發育經過を考察するに、緊要なるは身長關係を考慮せざるべからず、夫れ體重の大小は骨格に比例すべきものにして、就中身長との相關々係に影響する所大なれば、次項身長の記述に於て考察することとせむ。

□本島と内地との體重比較 (單位々)

年 齡	男				女			
	本島	内地	島民の差減	本島	内地	島民の差減		
六	四三三	四三三	〇	四三三	四三三	〇		
七	四三三	四三三	〇	四三三	四三三	〇		
八	四三三	四三三	〇	四三三	四三三	〇		
九	四三三	四三三	〇	四三三	四三三	〇		
一〇	四三三	四三三	〇	四三三	四三三	〇		
一一	四三三	四三三	〇	四三三	四三三	〇		
一二	四三三	四三三	〇	四三三	四三三	〇		
一三	四三三	四三三	〇	四三三	四三三	〇		
一四	四三三	四三三	〇	四三三	四三三	〇		

二 身 長

イ 全島的觀察

本年齡期(六歳乃至十四歳)に於ける身長の絶対發育値は男に在りては一四一分、女は男よりも僅かに高く一四六分の伸長を呈してゐる。而して各性毎一年に男は一五七分、女は一六二分の成育に該る。

十一歳までは男は女を凌駕してゐるが、十二歳に至れば一轉して女が優れて來る傾向あるは不健康地帯の成績と其の軌を一にしてゐる。

各歳間に於ける伸長状態を見ると、男は一一分乃至二〇分の間にあり、就中十二、三歳の伸長力最も遲鈍である。女は十歳の一二分より六歳の十九分の間に在りて成育し就中十歳、十四歳を除くと他の各歳は一七分内外の平衡なる發育を繼續してゐる。

次に男女別に依り身長發育の状態と、絶対發育値とを表章するときは次表の通りである。

□體性別身長の發育状態 (單位:分「尺寸」)

種 別	六 歳		七 歳		八 歳		九 歳		一〇 歳		一一 歳		一二 歳		一三 歳		一四 歳	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
年々の發育値	三三	三二	三五	三四	三八	三六	四一	四〇	四三	四二	四五	四四	四八	四七	五〇	四九	五三	五二
差	二	一	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
備考	(+)は女の優れたるを示す。																	

ロ 地方別觀察

各州別に身長發育の經過を觀るに最も冠絶せるは臺中州にして全島平均位を突破してゐる、唯僅かに九歳の女が平的に達せざるのみである。亞で臺北、新竹の兩州が良好である、臺北州の平均位に及ばざるは男女を通じ各一年宛にして、即ち七歳の男と九歳の女である。新竹州の平均位に達せざるは女の六、八、九の三年齡にて七歳は平均と同位を示した、男は勿論各歳孰れも平均位を超過してゐる。臺南、高雄の兩州は男女各歳を通じ、總て平均位に達してゐるものなく、全く短軀を呈するものである。南臺灣地方の發育に遅緩あるは風土氣候等に依る地理的影響に支配せらるゝことは言を俟たざるも、亦生活態様に基因するは疑なきをもつて體位向上には慎重の考察を遂げなければならぬ。

□六歳乃至十四歳の平均身長 (單位:分)

地方及體性	六 歳	七 歳	八 歳	九 歳	一〇 歳	一一 歳	一二 歳	一三 歳	一四 歳
臺北州 男	三三	三五	三八	四一	四三	四五	四八	五〇	五三
臺北州 女	三二	三四	三六	三八	四〇	四二	四四	四六	四八
新竹州 男	三三	三五	三八	四一	四三	四五	四八	五〇	五三
新竹州 女	三二	三四	三六	三八	四〇	四二	四四	四六	四八
臺中州 男	三三	三五	三八	四一	四三	四五	四八	五〇	五三
臺中州 女	三二	三四	三六	三八	四〇	四二	四四	四六	四八
臺南州 男	三三	三五	三八	四一	四三	四五	四八	五〇	五三
臺南州 女	三二	三四	三六	三八	四〇	四二	四四	四六	四八
高雄州 男	三三	三五	三八	四一	四三	四五	四八	五〇	五三
高雄州 女	三二	三四	三六	三八	四〇	四二	四四	四六	四八

如上の身長發育成績は單に十五歳未満に於ける実績であり、且つ平均位と對比しての優劣を觀察したるに止まりて、本年齡期に於ける眞の發育状態を闡明したものでないから、從て六歳末に於て短小なるものは、假令本年齡期中に於て比較的卓越なる伸長を遂ぐるも、十五歳末には未だ幼年期に於ける不及の差を補償し得ざるがため依然として矮身なりとの決論を見る結果、本期に於ける身長の絶対發育値を算出して見ると。

1 最も發育の旺盛なりしは臺中州の男にて、平均位より約一寸高く、之を發育率の最低なる臺南州に比すれば約二寸高し。而して臺南州男の發育値の甚だ低位にあるは女に於ても認めざる低率である。

今、全島を指數一〇〇にて示すときは臺南州男の割合は九二に過ぎない。

2 高雄州は臺南州と其の揆を一にし全島平均位に達するものなき状態なれども本年齡期にある絶対發育値を觀るときは、女に在りては全島平均位より却つて高く、且つ臺南州は勿論、臺北州よりも優良なり。即ち全島女の指數を一〇〇とせば臺南州は九八、臺北州は九九、高雄州は一〇一を示すこととなり、更に臺中州(平均位と同じく一〇〇)を凌ぎ、新竹州に亞ぐ優秀である。

3 最低位にあるは臺南州にして、臺北州は比較的好良なるが如きも、實は六歳未満の幼兒期に於ける好勢の餘波に依る影響にして本年齡期の生育成績に在りては各州中男は三位、女は辛じて四位を保つてゐるに過ぎないのである。

次に各州別の絶対發育値を一年平均發育値、指數並に成績の順位とを、表章するときには次表の通りである。

□六歳乃至十四歳の絶対發育値 (單位・分)

性及州	女					男				
	高雄州	台南州	台中州	新竹州	臺北州	高雄州	台南州	台中州	新竹州	臺北州
絕對發育値	一四七	一四三	一四六	一四九	一四五	一三九	一三〇	一四九	一四七	一四四
一年平均發育値	一六三	一五九	一六二	一六六	一六一	一五四	一四四	一六六	一六三	一六〇
指數	一〇一	九八	一〇〇	一〇二	一〇〇	九九	九二	一〇六	一〇四	一〇二
順位	二	五	三	一	四	四	五	一	二	三

ハ 好惡兩地區に於ける比較

地理的關係の人體に影響あるは自明の理に屬す、故に健康地、不健康地の衛生事情を對比するまでもなく健康地は勿論勝れてゐるのである。詳言すると不健康地に在りては一般死亡の高率、上下水道の不備、庶民病の蔓延、有病者の高率等が著名である計でなく、延ては經濟關係から家屋の構造に於ても採光通風の不良、療養機關の不整、豫防施設の缺陷等は想像することが能きる。

従つて保健思想の低級なることも背れる。然れども之が分量的に、數字的に比較して其の異同を
開明し得るものは本調査の結果に俟たなければならぬ。

今、健、不健兩地區に於ける住民の體格中身長に就て之を對照すると、本年齡期(六歳乃至十四
歳)に在りては豫想に反せず男女とも良好地優良なるを見た。即ち乳幼児期には好惡兩地の優劣に
多少の參差が伏在してゐたが、本年齡期間には各性一歳として不良地の優良なるはなく、且つ年
齡の長するに従つて其の較差を大ならしめてゐる。詳言すると男女孰れも十二歳迄は一寸内外の
差違であつたものが、十三歳以上になると一寸以上の大差違となつた。
其の各性、各歳の身長比較表を提示するときは、次表の如くである。

□好惡兩地區に於ける體性別身長比較 (單位:分)

年 齡	男			女		
	良好地	不良地	差	良好地	不良地	差
六 歳	三三六	三三六	〇	三三六	三三六	〇
七 歳	三三五	三三六	一	三三五	三三六	一
八 歳	三六〇	三三六	二四	三六〇	三三六	二四
九 歳	三九三	三三六	五七	三九三	三三六	五七
一〇 歳	四一七	三三六	八一	四一七	三三六	八一
一一 歳	四四〇	三三六	一〇四	四四〇	三三六	一〇四
一二 歳	四六三	三三六	一二七	四六三	三三六	一二七
一三 歳	四八六	三三六	一五〇	四八六	三三六	一五〇
一四 歳	五〇九	三三六	一七三	五〇九	三三六	一七三

更に保健調査の身長成績を、本島人學校生徒兒童のそれと比較すると、各歳保健調査は劣小を
呈してゐる。即ち男の狀況を見るに、六歳は五分の差減を示し、七歳乃至十四歳は二分乃至四分
の間において孰れも本調査は低減を示してゐる。但し十一歳は兩成績同位である。女は男と同じ
く各歳本調査低劣を示し、特に六歳は一分の大差あり、次で十四歳は九分、十三歳は八分の差
減あり、九歳の較差は二分にして本年齡期中の好成績である。其の他の各歳は四分乃至七分の
間に在りて、本調査は低劣を示してゐる。

右學校生徒兒童の成績は昭和二年度施行にて、保健調査は同四年乃至六年實施のものなれば調
査時より考察するときは衛生的事情の改善等より寧ろ本調査成績の良好なりとは承服するところ
であるが、事實の之に反するは本調査は部落集團民一般の水準位を示すものにて眞の體格相と見
るべきものである。學校生徒兒童に對するものは病弱、不具又は貧困者等の未就學者を除した
るものであるから、一般的平均位を表現するものでない。其の詳細を掲ぐると、次表の通りであ
る。

□本島人學校生徒兒童との比較 (單位:分, 尺寸)

年 齡	男			女		
	保健調査	學校衛生	本調査の差減	保健調査	學校衛生	本調査の差減
六 歳	三三六	三三六	〇	三三六	三三六	〇
七 歳	三三五	三三六	一	三三五	三三六	一
八 歳	三六〇	三三六	二四	三六〇	三三六	二四

年 齡	男			女		
	保健調査	學校衛生	本調査の差減	保健調査	學校衛生	本調査の差減
九 歳	四三	四三	三	四二	四二	二
一〇 歳	四七	四九	二	四三	四三	六
一一 歳	四四	四六	二	四四	四四	七
一二 歳	四五	四七	二	四五	四五	八
一三 歳	四七	四八	一	四六	四六	九
一四 歳	四七	四七	三	四五	四五	

二 内地との比較

衛生状態の不良地域に於ける身長を、内地農村のそれと比照するとき、本島民の身長は甚だ低劣にて、内地農民に遠く及ばざる所なりしが、本籍即ち本島の衛生状態優良地のそれと比較するに、全く反現象を呈し、大體に本島民の優秀なるを知れり。

今、男に就て之を見ると六歳乃至十二歳間は三分乃至六分の間にありて本島人勝れ、十三歳は内地農村一分の少差をもつて勝れ、十四歳は本島、内地同位を示してゐる。

女にありては各歳本島民が優秀である、而してその優量は六歳の一分より九歳の七分の間である。

如上の比較を例に依つて表示すると、次表の如くである。

□本島と内地との身長比較（單位・分）

年 齡	男			女		
	本島	内地	差	本島	内地	差
六 歳	三五	三五	〇	三六	三六	〇
七 歳	三八	三五	三	三九	三九	〇
八 歳	四〇	三九	一	四〇	四〇	〇
九 歳	四二	四一	一	四二	四二	〇
一〇 歳	四三	四二	一	四三	四三	〇
一一 歳	四四	四三	一	四四	四四	〇
一二 歳	四五	四四	一	四五	四五	〇
一三 歳	四七	四六	一	四六	四六	〇
一四 歳	四七	四七	〇	四五	四五	〇

備考 (一)は本島の劣れるを示す。

三 胸 圍

イ 全島的觀察

六歳乃至十四歳は學齡兒童生徒にして、少年少女期に屬し、伸長肥滿孰れも著明の發達を見る期間である。

本年齡期に於ける胸圍の絶對發育値は、男は五三分、女は男よりも熾烈を極め五九分を呈し、各年平均男は六分女は七分に該り、就中男は十四歳にありては一〇分の激増を呈してゐる、尙平均以上に發達せるは十三歳の七分にして、其の他の各歳に於ては殆ど平衡を保ち、平均位に遜き増

加率を示してゐる。

女の發育状態を見ると、各年の發育は二分乃至一分の間にありて、男の傾向と異なる過程を取つてゐる。即ち六、八歳の兩歳は僅に二分の發達に止れども十三歳に至れば遽に肥大を呈し一〇分以上に上昇して来る。

之を要するに十三歳に達すると第二伸長期に入り、従つて横徑的發育も亦旺盛を極め、特に女に在りて著明なるを知る。

次に體性に依る差異を見ると、男は生後恒に女を凌駕してゐたが、十二歳になると女は追及して男と同位となり、十三歳に至れば女は更に長大を呈し却つて男を超ゆること三分、尙一年々長の十四歳に至れば四分の優良振りである。

□體性別胸圍比較 (單位:分)

性	年々の發育値		六 歲	七 歲	八 歲	九 歲	一〇 歲	一一 歲	一二 歲	一三 歲	一四 歲
	男	女									
男	一八	一五									
女	一五	一三									
差	三	二									
男	二	三	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇
女	二	三	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一
差	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

備考 (一)は男の劣りたるもの。

□ 地方別觀察

胸圍の發育歸嚮を、地方別に之を觀察すると、新竹州最も優良にして各性、各歳悉く全島平均位を凌いでゐる。亞で臺北州良好にして平均に達せざるは唯女の十二歳のみにて、平均と同位にあるは女の十歳である。第三位にあるは臺中州にて、女は平均位より各歳總て優良なれども、男に在りては平均に及ばざるもの及び平均と同位にあるもの各二年齡を示してゐる、而して前者は七、十歳の兩年、後者は九、十二歳の兩年齡である。

之に反し、臺南及び高雄の兩州は各性各歳一として平均に達するものなきは、體重、身長と同型であつて當然の歸結であらう。

更に本年齡期に於ける優秀新竹州の各年に於ける胸圍を、狭少なる臺南州の一年々長者とを比較して見ると、まだ、新竹州が遙に勝れてゐることが明かる。即ち男に在りては新竹州の五歳と臺南州の六歳とを對比すると、兩州とも一七七分にて同位を示す外、他の各歳は總て新竹州が秀れてゐる。又女にありては新竹州の六歳と、臺南州の七歳とを比較したる場合に新竹州が一分の差減にて劣れるの外、其の他の各歳は男の場合と同じく新竹州が勝れてゐる。

今、兩州の比較を試るに、先づ新竹州の男女各歳を一〇〇とし、臺南州は總て新竹州よりは一年年長者の同割合を算出し之を表示すると。

男	六歲	七歲	八歲	九歲	一〇歲	一一歲	一二歲	一三歲	一四歲
女	九八	一〇〇	一〇一	九八	九八	九八	九八	九八	九八

右表を吟味するまでもなく、臺南州居住民は新竹州居住民の一歳以下のものと比較しても、尙ほ

かつ劣小を呈してゐるのである、特に十四歳に於て著差が認めらるゝのである。尤も種族の關係も考慮する必要があらう。即ち新竹州は主として廣東種に屬し、臺南州は大體福建族である。次に各州に依る、平均胸圍を年齢別とし、之を表示するときは次表の通りである。

□六歳乃至十四歳の平均胸圍 (單位分)

地方及體性	六歳		七歳		八歳		九歳		一〇歳		一一歳		一二歳		一三歳		一四歳	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
臺北州	一五	一六	一六	一七	一七	一八	一八	一九	一九	二〇	二〇	二一	二一	二二	二二	二三	二三	二三
新竹州	一六	一七	一七	一八	一八	一九	一九	二〇	二〇	二一	二一	二二	二二	二三	二三	二四	二四	二四
臺中州	一六	一七	一七	一八	一八	一九	一九	二〇	二〇	二一	二一	二二	二二	二三	二三	二四	二四	二四
臺南州	一五	一六	一六	一七	一七	一八	一八	一九	一九	二〇	二〇	二一	二一	二二	二二	二三	二三	二三
高雄州	一五	一六	一六	一七	一七	一八	一八	一九	一九	二〇	二〇	二一	二一	二二	二二	二三	二三	二三

ハ 好悪兩地區に於ける比較

前項身長の場合と同じく、胸圍も亦優良地は不良地を遙に凌ぎ、恒常的型體を示し各歳一として不良地の勝れたるものあるを見ず、而かも各性年齢の長するに従て其の減差を大にしてゐる。即ち男にありては六歳の三分より十四歳の九分に至る間に在り、又女に在りては六歳の一分より

十四歳の八分に至る差異を認められた。仍ち人體の健、不健は體貌を瞥見したのみにして、類推することが能るとは洵とに箴言であることが裏書されたのである。

其の詳細は、本比較表を掲出して其の詳述を割愛することゝした。

□好悪兩地區に於ける體性別胸圍比較 (單位分)

年 齡	男				女			
	良好地	不良地	較 差	較 差	良好地	不良地	較 差	較 差
六 歳	一六	一六	〇	〇	一五	一五	〇	〇
七 歳	一七	一七	〇	〇	一六	一六	〇	〇
八 歳	一八	一八	〇	〇	一七	一七	〇	〇
九 歳	一九	一九	〇	〇	一八	一八	〇	〇
一〇 歳	一九	一九	〇	〇	一九	一九	〇	〇
一一 歳	二〇	二〇	〇	〇	二〇	二〇	〇	〇
一二 歳	二一	二一	〇	〇	二一	二一	〇	〇
一三 歳	二二	二二	〇	〇	二二	二二	〇	〇
一四 歳	二三	二三	〇	〇	二三	二三	〇	〇

ニ 内地との比較

本年齡期に於ける胸圍を、島内衛生状態の良好地、不良地に分ちて比較して見ると、前節の如く不良地は總て良好地に一籌を輸してゐたが、内地に對比すると之が又總て内地に劣つてゐて、島民の體格が餘りの慘めさに愕かざるを得ぬ状態である。

而して本島人胸圍の狭少程度を窺ふに、男に在りては六歳に於ては僅かに一分の差減に過ぎざるも、七歳には三分に上り、八、九歳に至れば四分の差減を呈し、夫よりは年齢の長するに随伴して六、七、九分とその較差を大ならしめ、十四歳の終りには一分の大差を示すに至つて來る。女の傾向は男よりは幾分緩慢なれども、年齢の長するに従つて、その差減を大ならしむることは同軌である。即ち六歳の一分より十四歳の八分の間、に在りて島民が狭少を呈してゐる。但し七歳のみは一分の差違を以て島民が勝れてゐる。

□本島と内地との胸圍比較(單位:分)

年 齡	男			女		
	本島	内地	較 差	本島	内地	較 差
六 歳	一八	一八	(-)	一五	一五	(-)
七 歳	一八	一八	(-)	一六	一六	(-)
八 歳	一九	一九	(-)	一七	一七	(-)
九 歳	一九	一九	(-)	一七	一七	(-)
一〇 歳	二〇	二〇	(-)	一八	一八	(-)
一 歳	二一	二一	(-)	一九	一九	(-)
二 歳	二二	二二	(-)	二〇	二〇	(-)
三 歳	二三	二三	(-)	二一	二一	(-)
四 歳	二三	二三	(-)	二二	二二	(-)
五 歳	二三	二三	(-)	二二	二二	(-)

備考 (一)は本島の低劣なるを示す。

第三 十五歳乃至二十四歳の體格

一 體 重

イ 全島の觀察

本年齡期(十五歳乃至二十四歳)は人體の最も旺盛なる發育期より起り、人體の完成期に迫ふ時機であるから、従つて體格美の高潮季であり、又思索念の進取向上に猪突すべき、人生の華とも謂ふべき年輩に屬してゐる。

今、年々の絶対發育値を見るに、十五歳は一貫二百匁の肥満量を示し、各年中の最高發育率を現出してゐる。亞で十六歳は前年齡より少しく低率を示し一貫目臺に下り、それ以上は年齢の長するに随つて逐歳減率を呈し、二十三歳の百匁強を劃期とし、二十四歳には前年より五十五匁の減量を示してゐる。

次に女の體重關係を見ると、十五歳にありては男の場合と同じく前年より一貫百匁の激増を呈し、十六歳以上は其の肥満量男に比し甚だ低位を示してゐる。詳言すると十六歳は六八五匁を示し爾來減率を辿り二十一歳の一一匁に至りて劃期を爲して平衡的發育期に入る。二十二歳は前年より四〇匁の減少となり、二十三歳は再轉して増量を見れども、二十四歳には更に逆轉して減量してゐる。

男女に依る體量の差違を一瞥すると、十五、六歳は女の體重優秀にして、前年は四三一匁、後年は四二匁の差増を示してゐる。十七歳に至ると男の發育が旺盛となつて女を凌駕し、二十四歳に

至る八年齡間追越其の差増を廓大しつゝ發育經過を取つてゐる。即ちその差増は十七歳の二二四
女より二十四歳の一四〇〇女に迫んでゐる。

之を要するに、男は二十三歳まで比年増量を認められるが、女は男よりは二年早く二十一歳に
於て既に上昇的發育の劃期としてゐる。

□體性別體重比較 (單位: 多)

性	男女の差		男女の發育值	
	男	女	男	女
一五歳	1050	1050	(-)	(-)
一六歳	1150	1150	(-)	(-)
一七歳	1300	1250	100	100
一八歳	1350	1300	100	100
一九歳	1400	1350	100	100
二〇歳	1450	1400	100	100
二一歳	1500	1450	100	100
二二歳	1550	1500	100	100
二三歳	1600	1550	100	100
二四歳	1650	1600	100	100

備考 「男女の差欄の(-)は女の勝れたるもの。又年々の發育值欄の(-)は前年より低減したるを示す。

□ 地方別觀察

體重は體力と不可分の關係に立つてゐる、即ち體重の増大なることは軀幹筋及び四肢の豐滿、
其の他内臓の發育が良好なるを示すものにして、從て體力の強固で健康なるを證左するものであ
る。但し脂肪過多なる變質性の介在してゐることは免れぬ事實である。

今、體重の強弱に依つて、その地理的健否状態を卜察して見たい。本年齡期(十五歳乃至二十四
歳)に在りて男女俱に全島平均位を超越するは唯新竹州のみである。亞で臺北州は男に在りては平

均位を突破してゐるが、唯二十一歳の女のみは僅かに平均に及ばぬ。臺中州は男女俱に二十歳迄
は平均位を超越してゐるか、男は二十一歳以上、女は二十一歳は平均位以上、二十二歳よりは總
て平均水準位に達してゐない、即ち臺中州は成人期が北部地方に劣る傾向がある。臺南州は十九
歳の女、漸く平均位を抜く丈で、其の他の男女は孰れも劣小である。残る高雄州は兩性を通じ、
一歳として平均位に達してゐるものが無い。

由是觀之、各州の健康地帯と稱すれども其の程度に甲乙のあることは否まれぬ所である。今、
参考として最近昭和七年に於ける衛生界の總決算とも見るべき出生、死亡の兩比率と、之に伴ふ
人口の自然的増加の状態を少しく検討して見やう。

昭和七年の出生は二一四、一九二人、死亡は出生の半數に達せぬ四七%にして九九、一二五人で、
差引き出生超過一一五、〇六七人を示してゐる。その生死兩比率を算出すると、人口千につき出生
は四十四人二分、死亡は二十人五分、その較差二十三人七分が自然増加率、即ち人口四十二人毎
に一人宛の増加となる譯である。

之の状勢を地方別に剖析して見ると。

州	實數				人口千につき			
	出生	死亡	出生超過	出生超過(自然増)	出生	死亡	出生超過	出生超過(自然増)
全島	214,192	97,125	117,067	115,067	44.2	20.5	23.7	23.7
臺北州	28,500	16,500	12,000	11,000	45.7	19.5	26.2	26.2
新竹州	29,500	12,500	17,000	18,000	49.0	16.5	32.5	32.5

州 廳	實 數			人 口 千 々	
	出 生	死 亡	出生超過	出 生	死 亡
臺 南 州	五二五	三三〇	一九五	四六	二〇
臺 東 州	五七三	二七三	二〇〇	四三	一四
高 雄 州	六三七	三三七	三〇〇	四一	一七
花 蓮 縣	三二五	一三三	一九二	四七	一四
澎 湖 廳	三二〇	一〇三	二一七	四七	一五
總 計	二五八	一五二	一〇六	四三	一六

本表に依ると、出生率の全島平均位以上にあるは臺中、臺南の兩州にして、之に亞ぐは高雄州である。最低率は臺北州を最とし花蓮港、臺東の兩廳の順位である。即ち體重の優秀を誇る新竹州は出生に於ては中位、臺北州は最低位である。然れども出生率の高下に依りて、直に保健状態の良否を判すべきものにあらず。出生は死亡を對象として考察せなければならぬ、詳言すると人口増加の主因は出生に左右せらるれども、多産には又随つて死亡多きは自然の理である。之れ乳兒の夭折は第二の妊娠を早めるからである。故に出生は如何に多數でも死亡亦之に準じて多數なる場合は、よしや人口に増加を來すとはいへ好現象といふことは出來ないのである。之によりて死亡の歸嚮を探尋するに全島死亡率は二〇・五%にして最悪なるは臺東廳の二四%である、之によりて最良なるは新竹州の一六・五%にして全島平均率より四%良好なり。亞で臺北州の一・九%、臺中州の二〇%等にして、臺南州は各州中の最高率(二三%)を示してゐる。

出生超過の比率を見ると臺中州最良にして二七・二%を占め、新竹州は〇・八%の差減にて次位に

在り、兩州出生率の較差は四・七%を示せども、出生超過に於ては僅かに〇・八%に過ぎざるは、新竹州の死亡比率は良好なるを知るべきである。臺北州の人口増加率の比較的低位にあるは、島都臺北市並に基隆市を包含する結果、地理的環境の外、居住人口の縁事關係、衛生思潮の向上及び醫療機關の充實等に職由するものにして、文化的聚落地に於ける時代相、即ち恒常的定型と見るべきものならむ乎。

更に本年齡期に於ける絶対發育値を観るに地方に依りて徑庭あり、特に體重の高潮期に差等ありて早熟と晩熟との間には四、五歳の遅速あるを見たり。左に當該年齡間に於ける絶対發育値と、最重年齡並に指數を表示する。

□ 體重の最高期に於ける年齡 (單位: 々)

地方及性	十四歳末の體重	體 重 の 最 高 年 齡		絕對發育値	指 數
		年 齡 (歲)	體 重		
全 臺 南 州	九三三	三	一四三	四九七	一〇九
全 臺 東 州	九六九	三	一四七	四九二	一〇九
全 高 雄 州	九四三	三	一四七	四九二	一〇九
全 花 蓮 縣	九八〇	三	一四七	四九二	一〇九
全 澎 湖 廳	九八〇	三	一四七	四九二	一〇九
北 竹 州	八五七	三	一四三	四八八	一〇八
中 南 州	八五七	三	一四三	四八八	一〇八
南 南 州	八五七	三	一四三	四八八	一〇八
北 竹 州	一〇〇九	三	一四七	四九二	一〇九
南 南 州	一〇〇九	三	一四七	四九二	一〇九
中 南 州	一〇〇九	三	一四七	四九二	一〇九
北 竹 州	一〇〇九	三	一四七	四九二	一〇九
南 南 州	一〇〇九	三	一四七	四九二	一〇九
中 南 州	一〇〇九	三	一四七	四九二	一〇九
北 竹 州	一〇〇九	三	一四七	四九二	一〇九

上表に依ると満二十四歳内に於ける、體量盈滿期は全島平均としては男女俱に二十三歳であるが、島都を有する臺北州が一番早く男は二十一歳女は二十歳である、最も臺中州の女に在りても臺北州と同じく二十歳が最重年齢となつてゐる。全島平均より一年遅き二十四歳なるは男のみにて臺中、高雄の兩州が之に屬してゐる。但し如上は全年齡中の最高なるものに非ずして、二十四歳までの體重關係であることは謂ふまでもない。

終りに本最重年齢期に於ける絶対發育値を見ると、男に在りては臺南州第一位にして五貫五百匁を示し、全島平均の男を一〇〇とするときは一一一の指數を現はしてゐる、次は高雄、新竹の兩州にて孰れも五貫二百匁臺にして指數一〇五となつてゐる。各歳に於ける體重を比較するときには、前述のやうに臺南、高雄の兩州は低位にあれども本年齡期の發育率は臺中、臺北兩州に比し迥に高率なることが明かる。之を要するに南部兩州は十四歳未滿に於ては其の發育が遅々たりしが、本年齡期に至り著しく生育したのであるが、未だ北中部地方に追及し得ぬことである。又女に在りても全く男の傾向と同じく臺南州を優位とし、高雄州之に亞ぐの好成绩を上げてゐる。而かも其の指數より之を見るときは男の場合よりも一層顯著なるものがある、詳言すると臺北州の九五臺中州の九二に對比して臺北州は一二一、高雄州は一一四の高率を示してゐる。各歳別に平均體重を表章して、本項を擱く。

□十五歳乃至二十四歳の平均體重（單位、匁）

地方及性	男					女				
	全	新	臺	南	高	全	新	臺	南	高
一五歳	10,000	11,100	10,500	10,200	10,100	10,500	11,200	10,800	10,600	10,400
一六歳	11,500	12,500	11,800	11,500	11,400	11,800	12,800	12,400	12,200	12,000
一七歳	13,000	14,000	13,300	13,000	12,900	13,300	14,300	13,900	13,700	13,500
一八歳	14,500	15,500	14,800	14,500	14,400	14,800	15,800	15,400	15,200	15,000
一九歳	16,000	17,000	16,300	16,000	15,900	16,300	17,300	16,900	16,700	16,500
二〇歳	17,500	18,500	17,800	17,500	17,400	17,800	18,800	18,400	18,200	18,000
二一歳	19,000	20,000	19,300	19,000	18,900	19,300	20,300	19,900	19,700	19,500
二二歳	20,500	21,500	20,800	20,500	20,400	20,800	21,800	21,400	21,200	21,000
二三歳	22,000	23,000	22,300	22,000	21,900	22,300	23,300	22,900	22,700	22,500
二四歳	23,500	24,500	23,800	23,500	23,400	23,800	24,800	24,400	24,200	24,000

ハ 好悪兩地區に於ける比較

十五歳未滿者に於ける場合と同型にして、體重は衛生状態の良否に正比することが、如實に裏書して來たと謂へる。即ち男に在りては十六歳の九〇七匁より、二十四歳の三〇九匁の間にありて優良地が勝れてゐる。然れども年齢の長するに伴つて其の較差大を縮小して來る傾向が顯著である。女に在りては兩地區の間隔が男のやうに大ならざれども、大體の傾向は全く同軌を呈してゐる。即ち較差小なるは十九歳の一〇二匁にして之に反し、較差大なるは十六歳の七七五匁である。